
中国経済レポート No.36

穀物貿易の現状とそこから示唆される課題

【目次】

1. 拡大する農林水産物貿易の赤字.....p.1
2. 数量ベースでも赤字幅は拡大傾向.....p.2
3. 中国は世界トップクラスの農業生産大国.....p.4
4. なぜ大豆の輸入依存度の上昇が許容されるのか.....p.5

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 野田 麻里子 (chosa-report@murc.jp)

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

1. 拡大する農林水産物貿易の赤字

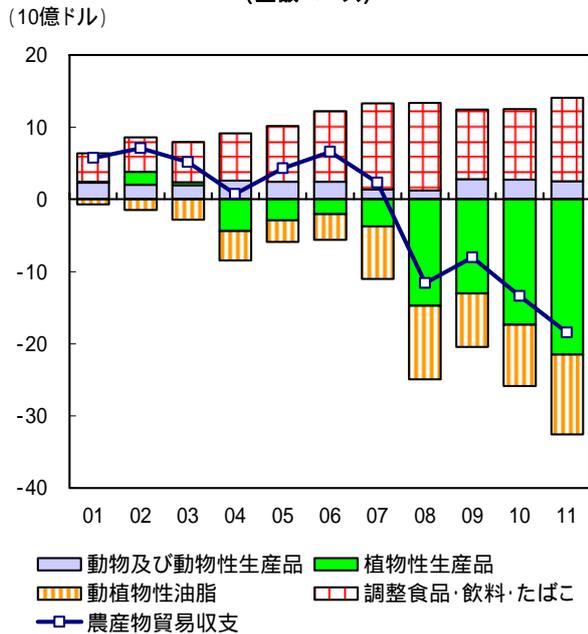
中国では毎年、その年の最重要課題が中央一号文書として発表される。そして2004年以降、9年連続して三農（農村、農業、農民）問題への取り組みがこの中央一号文書で取り上げられている。また、社会の安定の基礎である食料品価格の安定確保も常に重要な政策課題となっている。

さらに世界に目を転じれば、国際商品市況を左右する存在として中国の需要動向が注目されている。そこで本稿では、貿易統計を手がかりに中国の主要穀物（コメ、小麦、とうもろこし、大豆）の需給の現状とその課題について検証してみた。

まず、中国の農林水産物貿易¹の動向を見てみると、2007年までは黒字基調で推移していたが、2008年に一転、大幅な赤字となり、その後、赤字幅の拡大が続いている（図表1）。内訳を見ると、赤字の大半は貿易品目のHSコード第2部の植物性生産品の入超によるものである。

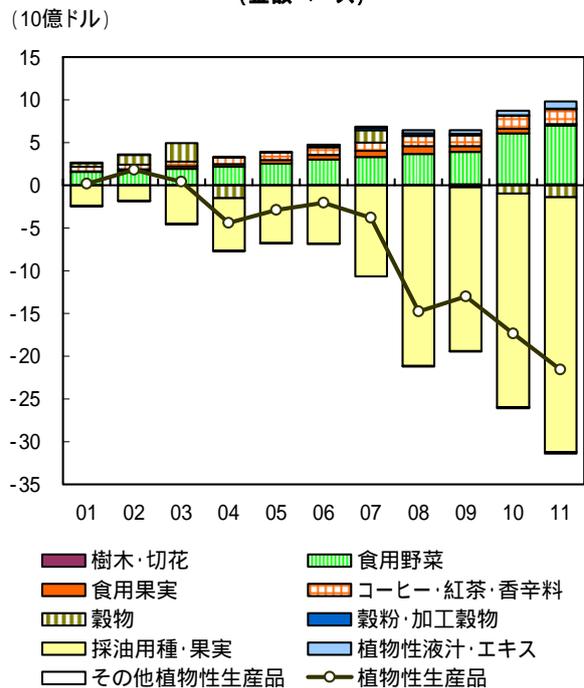
そこでさらにHSコード第2部について主要品目別の収支を見ると、赤字の大半が大豆をはじめとする採油用の種・果実類であり、また、その赤字幅が近年、急拡大しており、それが農林水産物全体の貿易収支の赤字の主因にもなっていることがわかる（図表2）。

図表1. 中国の農林水産物貿易収支の推移
(金額ベース)



(出所)CEIC

図表2. 中国の植物性生産品貿易収支の推移
(金額ベース)



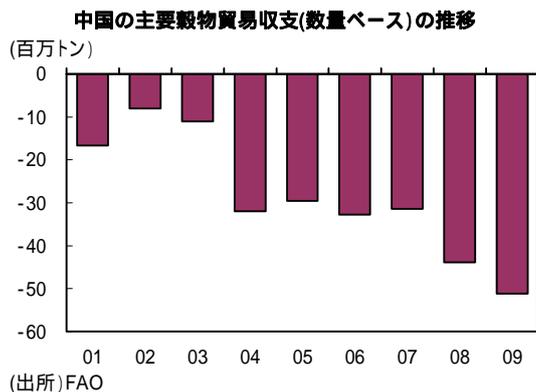
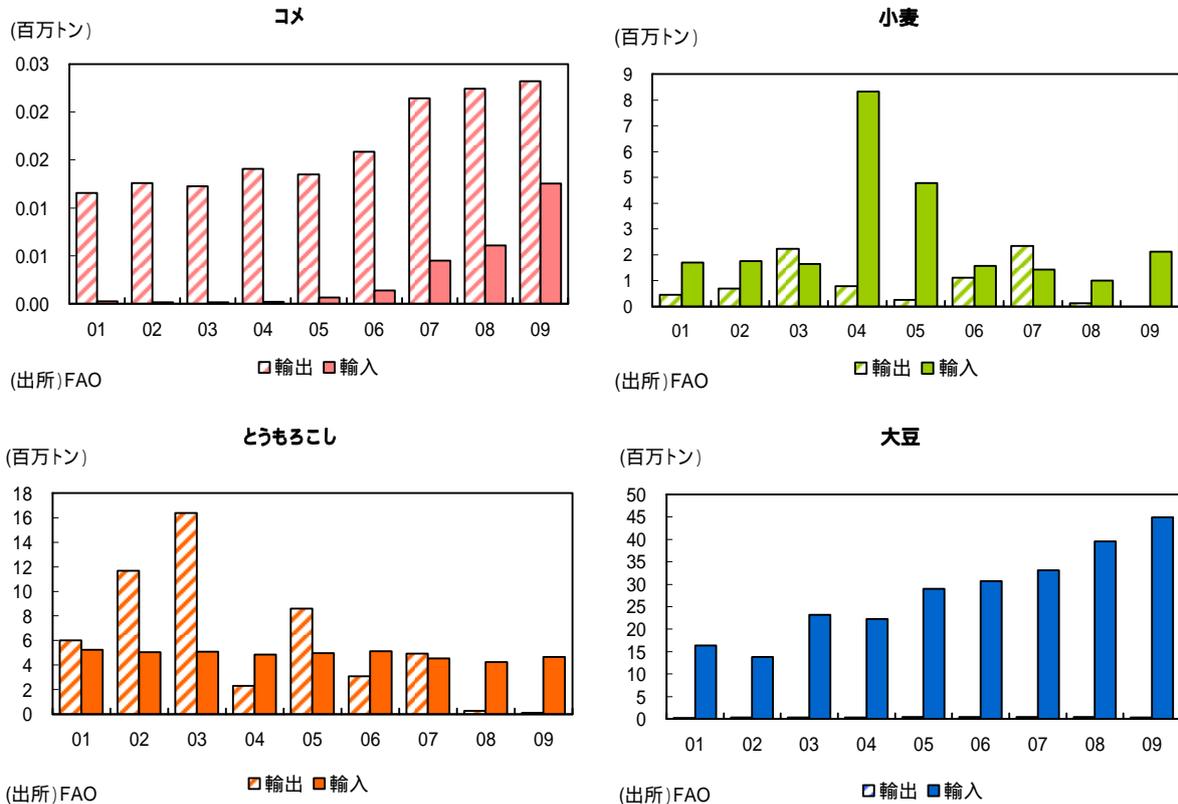
¹ ここではHSコードの第1部（動物及び動物性生産品）、第2部（植物性生産品）、第3部（動物性または植物性の油脂等）、第4部（調整食料品、飲料、アルコール、食酢、たばこ等）の合計を農林水産物貿易と定義している。

2. 数量ベースでも赤字幅は拡大傾向

農産物をはじめとする一次産品は価格の振れ幅が大きいいため、これが金額ベースの収支に影響することがある。そこで次に主要穀物であるコメ、小麦、とうもろこし、大豆について数量ベースで輸出入のバランスを見てみた（図表3）。

主食であるコメは他の穀物に比べてわずかな量ではあるものの、輸出量が輸入量を超過する状態が続いている。同じく主食の麺の材料である小麦は年によって輸出入量とも振れが大きく、入超の年も出超の年もあるという状況である。一方、とうもろこしは輸入量がほぼ一定であるのに対して輸出量が年によって振れるため、同じく入超になったり出超になったりしている。これに対して大豆は一貫して輸入量が輸出量を上回っており、かつ、入超幅が近年、大幅に拡大している。そして、その結果、これら4品目を合計した主要穀物の数量ベースの貿易収支は入超が続き、かつ、入超幅が拡大していることがわかる。

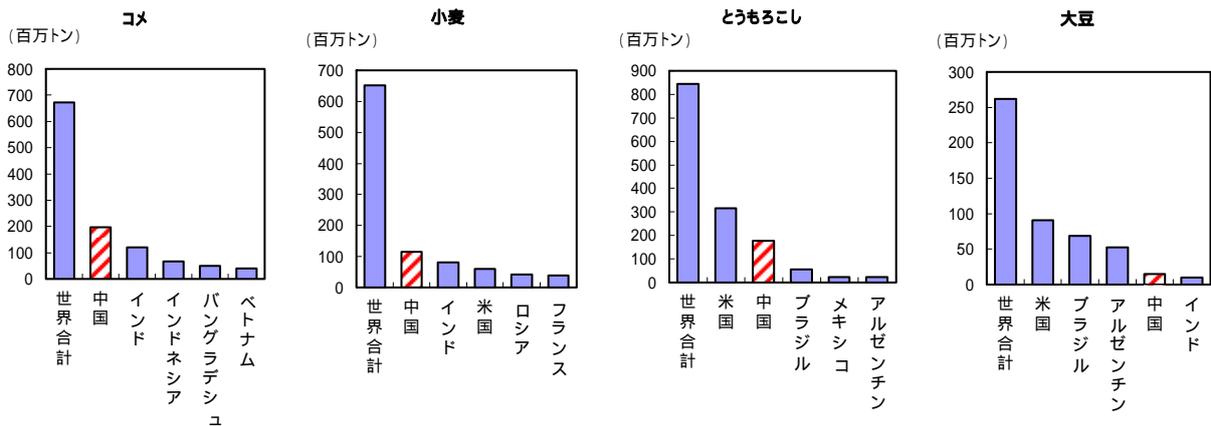
図表3. 中国の主要穀物貿易(数量ベース)の推移



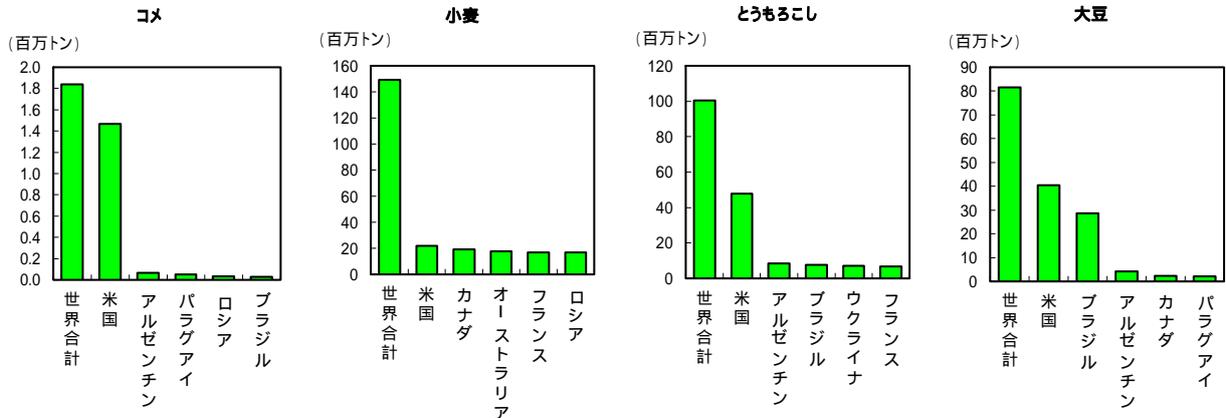
3. 中国は世界トップクラスの農業生産大国

中国の農産物あるいは穀物貿易については、金額ベースでも数量ベースでも赤字（入超）幅が拡大している。しかし、中国は主要穀物のいずれにおいても世界有数の生産国でもある（図表4）。ただし、その多くを国内で消費するため、穀物の主要輸出国ではない（図表5）。主要穀物の商品化率（＝輸出量÷生産量）はいずれも2%以下と極めて低い水準にある（次頁図表表7）。しかし、その一方で大豆については世界の輸入量の約6割を占める世界最大の輸入国であり（図表6）、大豆の輸入依存度（＝輸入量÷（生産量+輸入量））は7割超となっている（次頁図表8）。

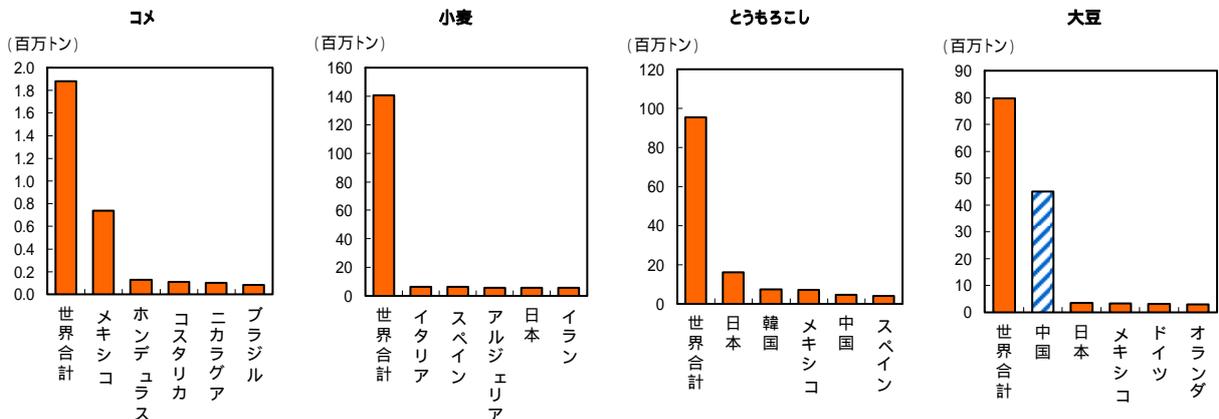
図表4. 世界の主要穀物生産量と上位5カ国の生産量(2010年)



図表5. 世界の主要穀物の輸出上位5カ国(2009年)



図表6. 世界の主要穀物の輸入上位5カ国(2009年)



(出所) FAO

図表7. 中国の主要穀物の商品化率 (%)

	コメ	小麦	とうもろこし	大豆
01	0.006	0.484	5.250	1.612
02	0.007	0.762	9.608	1.672
03	0.008	2.587	14.138	1.738
04	0.008	0.853	1.777	1.922
05	0.007	0.267	6.173	2.425
06	0.009	1.027	2.024	2.446
07	0.011	2.138	3.226	3.591
08	0.012	0.112	0.152	2.995
09	0.012	0.007	0.079	2.314

(注) 商品化率 = 輸出量 ÷ 生産量
(出所) FAO

図表8. 中国の主要穀物の輸入依存度 (%)

	コメ	小麦	とうもろこし	大豆
01	0.000	1.8	4.4	51.5
02	0.000	1.9	4.0	45.6
03	0.000	1.9	4.2	60.1
04	0.000	8.3	3.6	56.1
05	0.000	4.7	3.4	64.0
06	0.001	1.4	3.3	66.4
07	0.002	1.3	2.9	72.3
08	0.003	0.9	2.5	71.8
09	0.006	1.8	2.8	75.0

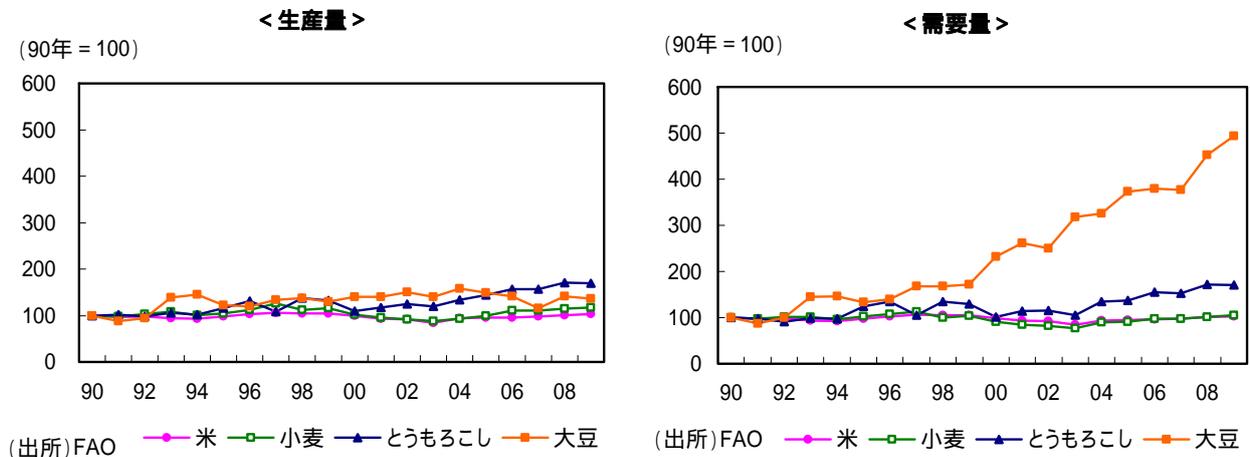
(注) 輸入依存度 = 輸入量 ÷ (生産量 + 輸入量)
(出所) FAO

4. なぜ大豆の輸入依存度の上昇が許容されるのか

これまで見てきたように農産物貿易の赤字幅の拡大、穀物貿易の入超量幅の拡大の主因はいずれも大豆の輸入増加にある。実際、増大する大豆需要の大半が輸入で賄われているわけだが、食糧安全保障上、疑問と思われるこうした高い輸入依存度がなぜ許容されているのだろうか。

これにはいくつか要因が考えられる。まず、所得水準の向上に伴い大豆の需要が生産量の伸びを大きく上回って拡大したことがあげられる。90年から09年にかけて大豆の生産量は約1.4倍に拡大したものの、同じ時期に大豆の需要量 (= 生産量 - 輸出量 + 輸入量) は約5倍に拡大している(図表9)。

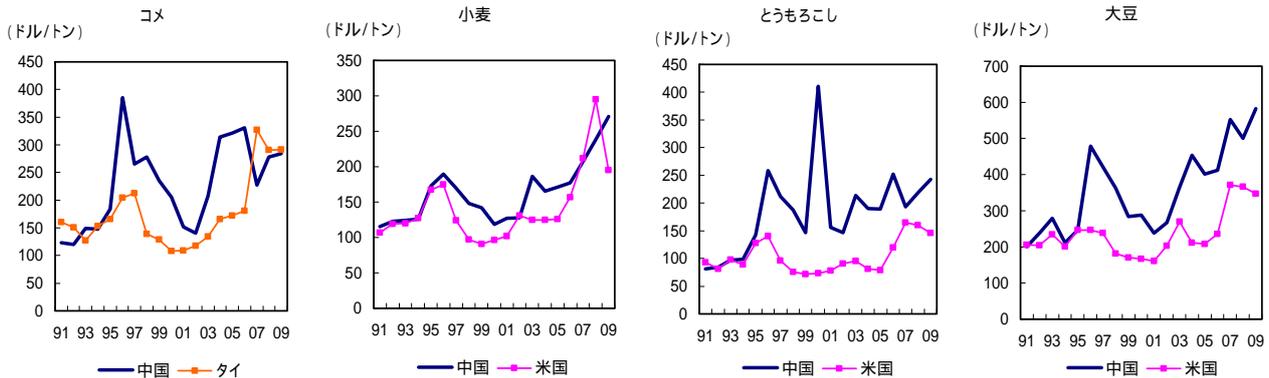
図表9. 中国の主要穀物の生産量と需要量の推移



また、中国の国産大豆の価格が高く競争力が低いことも、大幅に増加する需要を賄うために輸入の拡大を促したとみられる。次頁図表10は中国と主要生産国の生産者価格を比較したもののだが、コメと小麦は総じて国際価格水準で推移しているが、とうもろこしと大豆については近年、国内価格が国際価格を上回る状態が続いており、かつ大豆についてはその乖離幅(国内価格 > 国際価格)が大きくなる傾向が見られる。なお、こうした現状に鑑み、中国は加工用に限定して遺伝子組み換え大豆の輸入を認めている。

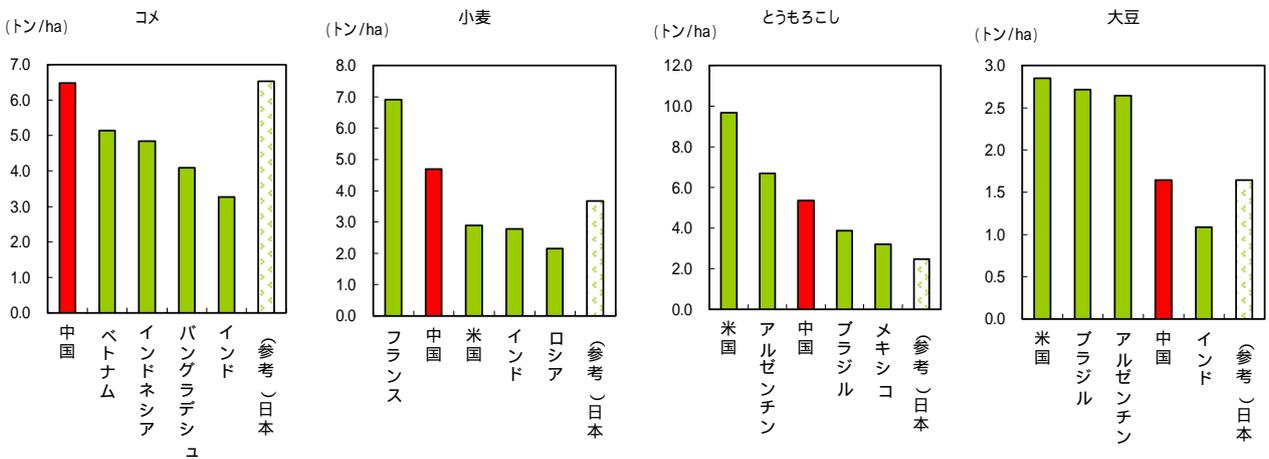
さらに考えられるのが中国の大豆の相対的な生産性の低さである。次頁図表11は穀物の主要生産国の単収(単位面積当たりの収穫量)を比較したもののだが、中国のコメ、小麦の単収は相対的に高い水準にあるのに対して、とうもろこしと大豆の単収は米国の約半分の水準にとどまっている。

図表10. 主要農作物の内外価格差(生産者価格ベース)



(出所)FAO (注)玉米はタイの生産者価格、小麦、とうもろこし、大豆は米国の生産者価格を国際価格と想定。

図表11. 穀物の主要生産国の単収(単位面積当たりの収穫量)比較

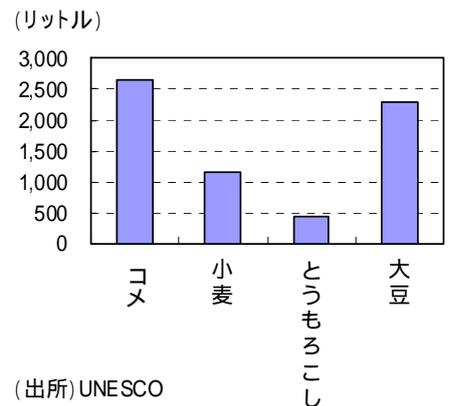


(出所)FAO (注)各国の単収は2006年から2010年の単収の平均値。

加えて、図表 12 に示した 1 kg 生産するのに必要な水の量を見れば、中国が増大する大豆の需要を賄うために輸入依存度を高める理由がさらに納得できるのではないだろうか。

工業化、都市化の進展を背景に、中国では工業・都市と農業・農村との間で深刻な水資源の取り合いが起こっていると言われる。大豆の輸入拡大は、水資源問題の改善に時間がかかる中で、国内の食糧安定供給と工業・生活用水の確保を両立させる高度な戦略的選択の結果と言えるのではないだろうか。

図表12. 1kgの生産に必要な水の量



(出所)UNESCO

以上

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。